

鳥島におけるアホウドリ保護増殖事業について

1. 背景

鳥島におけるアホウドリの保護増殖事業については、前回（平成20年9月）の分科会で、以下の方針について了承いただいた。

- ① 燕崎及び初寝崎でのモニタリングにより、昨年度も順調な繁殖が確認されているため、今年度も2～3月期に1回のモニタリングを行う。なお、初寝崎の雛へは引き続き4月～5月に足環を装着する（長谷川教授）。
- ② 鳥島では極力人為を排除して観察を続ける方針とするが、モニタリング結果より、繁殖環境の維持・改善のための事業再開の必要性が高まったと判断される場合には、分科会委員に諮り、対応の必要性等を検討する。

2. 平成20年度事業の実施結果

○鳥島（燕崎・初寝崎）でのモニタリング事業

実施期間：平成21年2月1日～2月17日（17日間）

実施結果概要：

- ・ 確認ヒナ数は、燕崎で268羽、初寝崎で37羽、子持山南斜面で5羽、合計310羽となり、前年の274羽より36羽増加した。着実に増加し調査開始以降最多となった（図1）。このうち燕崎のヒナ15羽を2月5日に小笠原聳島へ移送した。

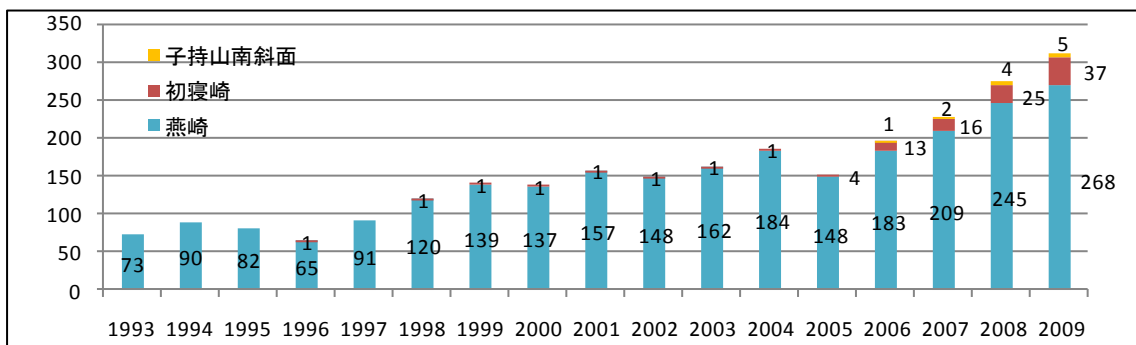


図1 鳥島における2-3月期の確認ヒナ数の推移

- ・ 初寝崎での毎正時（X時00分。7:00～17:00）の平均着地個体数は56.3羽であった。2000年以降着実な増加が見られる（図2）。

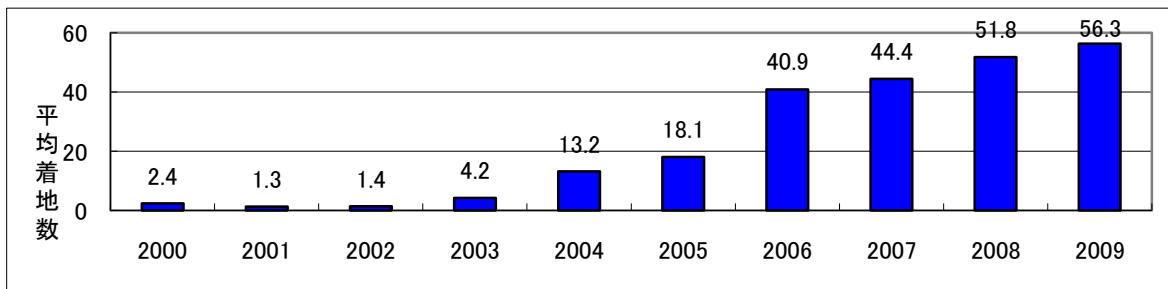


図2 初寝崎における2-3月の毎正時の平均着地個体数経年変化

- ・ 初寝崎で産卵した48つがいを含めて79ヶ所で特定のつがいの定着又は定着の可能性が認められた(図3。2007年は63ヶ所)。産卵した48巣のうち37巣(77.1%)でヒナが確認された。このうちの12巣が2回目、15巣が初めて繁殖した巣であった。来期の繁殖巣の更なる増加が期待される。

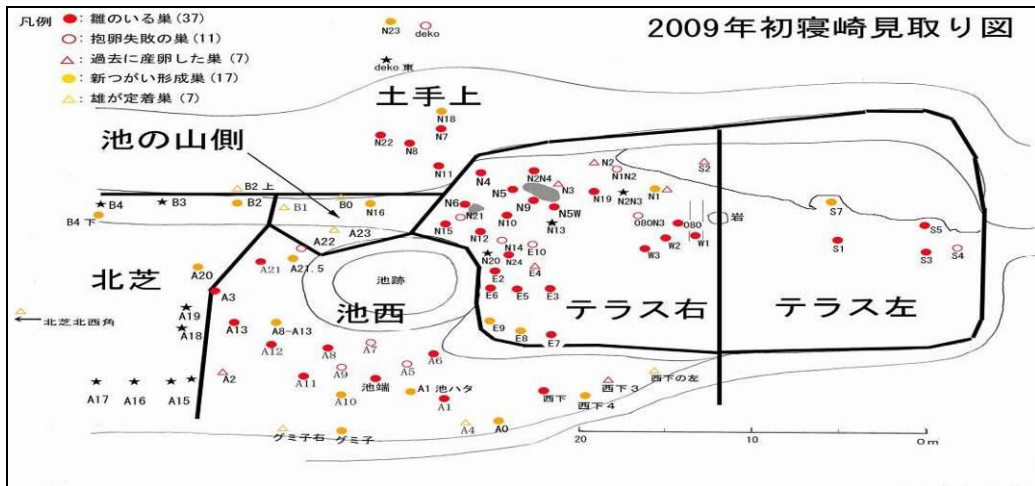


図3 初寝崎での営巣位置(見取り図(上)と写真(下))(2009年2月)
(注:図と写真は左右・上下が逆)

- ・ 初寝崎の繁殖地では、アホウドリの繁殖障害となるような問題は確認されなかったが、燕崎では、繁殖地中央流水路に土砂が新たに流れ込み、東西の繁殖地を結ぶアホウドリの移動路が遮断された。今後さらに土砂が流れ込めば繁殖地に直接影響を及ぼすおそれがある。
- ・ 北西斜面繁殖地のヒナ37羽に、長谷川教授が金属足環を装着した(2009年4月)。

3. 今年度事業の実施計画(案)

- ① 燕崎及び初寝崎でのモニタリングにより、昨年度も順調な繁殖が確認されているため、今年度も2~3月期に1回のモニタリングを行う。なお、初寝崎の雛へは引き続き4月~5月に足環を装着する(長谷川教授)。
- ② 鳥島では極力人為を排除して観察を続ける方針とするが、特に燕崎繁殖地の土砂流入の状況と繁殖への影響等について注意深くモニタリングを行い、繁殖環境の維持・改善のための事業再開の必要性が高まったと判断される場合には、分科会委員に諮り、対応の必要性等を検討する。



写真1 初寝崎新繁殖地全景(2009年2月)



写真2 初寝崎繁殖状況(2009年2月)



写真3 燕崎の中央砂の流れの状況(2009年2月)



写真4 燕崎中央の火山砂の流れ(2009年2月)



写真5 燕崎西コロニー全景(2008年2月)



写真6 燕崎東コロニー全景(2008年2月)